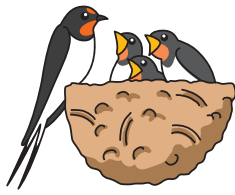


明すると、熱心にメモを取りながら、学習をしていました。

下山後、生徒代表から、「今回の登山を通じ、森林についていろいろな体験や学習が出来ました。本日はどうもありがとうございました。」と挨拶があり、当センターとしても、学校の要請に応えることができた、良い一日でした。



六月四日、高知県土佐清水市立中浜小学校の三、六年生一四名を対象に、通学路の樹木学習と樹木名板作



通学路の樹木学習

製を行いました。

今回の学習は、通学路にある樹木の名前や特徴を調べて樹木名板を作り、設置することで、季節ごとの樹木の様子を観察し、樹木について感心を持ってもらう

目的で実施しました。

最初に下敷

き「森林の大切な働き」を配布して、私達が日常生活をする上で大切な森林の働きについて説明しました。

次に、大浜と中浜の通学路を歩いて、

ナンテンの実を咳止

樹木名板完成



スターカラーで和名と科名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて樹木名板を完成させました。

最後に、「ナツグミが食べられるとは知らなかった。」「モチノキやネズミモチなどおもしろい名前の木があることがわかった。」「毎日通っている通学路の樹木の名前がわかったので良かった。」等の感想がありました。

今後、七月に木工クラブト学習等を行う予定であり、さまざまな学習を通して樹木や自然、森林等についての興味や理解を深めてもらうことを期待しています。

「源平屋島の森」で今年も地域総出でボランティア活動
〈香川森林管理事務所〉



森林ボランティア活動に参加される皆様

香川県高松市屋島にある国有林内の、古の源平古戦場を見下ろす風光明媚

香川県高松市屋島にある国有林内の、古の源平古戦場を見下ろす風光明媚。この森は、平成一八年、貸付跡地及びその周辺の林地約二ヘクタールについて、観光地・屋島で行う森林再生を手伝っていただこうと、スギやヒノキをはじめ、ヤマザクラ、クヌギ、イロハカエデ、オニツツジなど



森林ボランティア活動、下草刈り中

と、スギやヒノキをはじめ、ヤマザクラ、クヌギ、イロハカエデ、オニツツジなど

今年で一〇年が経過し、植えた木も立派に成長したものの、林内の環境をより良くしようと、今でも毎年地域総出で森の手入れをボランティアで行っています。

と一緒に植栽を行ったところでは、

今年も、五月二四日の日曜日に下草刈りやつる切り作業を実施しました。集合場所である屋島東小学校には早朝から鎌を持ったグループや親子連れが続々と集合。あつという間に一〇〇人を超えるボランティアの人たちで校庭がいっぱいになりました。当所長や校長先生のあいさつのもと総括森林整備官より注意事項を説明、その後みんな

気持ち良かった、また来年もやろうな。」と、多くの皆さんの暖かい声に、参加した職員一同あらためて「国民参加の森林づくり」の意義を再認識しました。

で森に入り約二時間、大汗をかきながら一生懸命に手入れを行いました。慣れない森の中の作業にもかかわらず、終わってみれば大人も子供も笑顔、笑顔：「清々しくて

五月二三日、日本木材青壮年団体連合会の第六〇回記念全国会員四国愛媛大会が開催され、式典出席のため林野庁の沖修司次長が来県されました。沖次長は、式典前日に、中村時広愛媛県知事を表敬

沖林野庁次長が来県
〈愛媛森林管理署〉

挨拶される沖次長



訪問されるとともに、木二五年創業で米ヒバ材の造（一部コンクリート造）取扱いは国内トップシェア。現在、国産ヒノキ材のある愛媛県武道館（平成一五年完成）を視察されました。

式典当日は午前中に、西条市にある（株）サイプレス・スナダヤ（明治サイエンス）を視察され、

の評価を質問され、同社は、国産ヒノキ材は材質、サイズともに輸入材を上回ることを説明し、今後の安定供給を強く希望するとされました。



六月二二日、一般社団法人香川県総合建設センターの依頼を受けて、川畑署長がFM愛媛ラジオに出演し木づかいの推進についてPRを行いました。

このラジオ放送は、林野庁の補助事業である木造住宅等地域材利用拡大事業の一環として、木の良さや木づかいによる環境貢献などを通じて愛媛県における地域材利用の意義について、消費者に広く知って頂くことを目的とし、その広報展

開の一つとして行われたものです。

この放送は、パーソナリティーからの質問に答える形式で行われ、川畑署長は、現在の四国局の取組の紹介を行うとともに、山や木と人の関係、国民参加の森林づくり、木づかいについて林野庁や四国局の取組を交えて説明し、国民の皆様

に生活の様々な場面において木材を使って頂くように強く訴えました。

ラジオということですが、多額の県民の皆様

収録中の川畑署長（右）



取組や木づかいのPRを行うことが出来たと思います。今後とも、当署としては様々な機会を捉えて四国局及び愛媛署のPRを行っていく考えです。